



正木小だより

令和7年1月29日

まさき

元気な心と体

今年初めての雪が1月10日（金）に降り、校庭は一面の銀世界になりました。子どもたちは、登校後にグラウンドへ出て、思いっきり雪遊びをしました。雪を固めて投げたり、雪だるまをつくったり、我を忘れて雪遊びをしているように見えました。羽島市は岐阜県でも南に位置し、年間を通じて降雪量は少ない温暖な気候です。子どもたちにとっては久しぶりの雪で、気持ちも随分高まったことでしょう。雪遊びをした後の子どもたちは、満足感でいっぱいの表情でした。

新型コロナウイルスが5類に移行した後も、本校においては冬季に、インフルエンザや風邪の流行などで、学級閉鎖を余儀なくされる時期もありました。体育の授業では、なわとび運動や持久走など、冬季に体力をつけるために適した運動を実施しています。また、休み時間には外遊びを推奨しています。

私自身は、運動をすると気分がすっきりして、気持ちが切り替わったり、気分がすっきりしたりした経験が何度もあります。タブレットやゲーム機、スマートフォンが広く普及している現代ですが、子供たちの心身の成長には、太陽の光を浴びて、外で遊んだり、運動したりすることは、とても大切だと感じています。

もうすぐ2月になります。1年で一番寒いとされる大寒（1月20日）は、過ぎました。日の出の時刻は早くなり、日の入りの時刻は遅くなり、日中の太陽が出ている時間は次第に長くなっています。季節の変化を感じる今日この頃です。本校の教育活動を通じて、雪遊びをした後の満足感いっぱいの笑顔を、今後も創り出したいと思っています。今後ともよろしく願いいたします。 校長 花村 伸二

